生活科の教材としての絵本

――学生たちが考えた「生活科」の授業で使える絵本から――

Teaching Living Environment Studies Ⅲ : Picture books that university students consider to be useful for the instruction of "living environment studies"

児童学科　　石井　光恵
Dept.of Child Studies　　Mitsue Ishii

抄　　録　小学校 1 年生，2 年生の教科である「生活科」の授業で絵本を活用する意義や可能性について考えてきた。本論文では少し視点を変えて「小学校の「生活科」の授業で絵本を活用するとしたら，どのような絵本がどう活用できるか」について，「生活」の講義を受講する大学 3 年生 83 名に考えてもらった。考えてもらうポイントとして，次の 5 点をあげた。①9 項目ある「生活科」の「内容」の内どの項目で授業をする場合か。（例として提示した「(9) 自分の成長」の項目は除いたので，実質 8 項目とした。）②授業の対象学年（1 年生，2 年生のどちらか）と授業の目的（ねらい）について。③授業の初めに導入として使う絵本。④より子どもたちの気付きを深めるために使う絵本。⑤それらの絵本を選んだ理由や根拠を述べる。絵本の総タイトルは 141 冊あがり，幅広い絵本選択がなされた。学生たちが考えた授業のイメージと絵本選択の根拠を含め，授業での絵本活用の可能性について分析する。

キーワード：生活科，絵本，「生活」の授業，小学校，絵本の選書

Abstract　The significance of and potential for using picture books for instruction in "living environment studies," a subject taught to first- and second-year elementary school students, has received research attention. This article changes the prevailing perspective slightly. Eighty-three third-year university students taking a course in life environment studies were asked to consider the questions, "if picture books were to be used for instruction in elementary school 'living environment studies,' what kind of picture books might be used, and in what way?" The students were asked to consider five points: ①Which of the nine items that make up the "content" of "living environment studies" would be taught? (Item (9) "The student's own growth," which was presented as an example, was omitted, so there were in effect eight items.); ②The grade to be taught (first- or second-year of elementary school) and the objectives (aims) of the instruction; ③Which books might be used at the beginning of instruction; ④Which books might be used to deepen children's awareness; and ⑤Your reasons or grounds for selecting these books. A wide range of picture books, totalling 141 titles, were suggested. This article analyzes the potential for using picture books for instruction, and considers students' images of how that instruction would look and the grounds for selecting the picture books that they did.

Keywords: Living Environment Studies, picture books, a course in life environment studies, elementary school, selecting picture books

はじめに

「気付きの目を養うロールモデルとしての絵本」を生活科の授業に導入する可能性について考えるというのが，この一連の研究の始まり [1] である。生活科は子どもが主体的にかかわる体験（経験）を重視する教科で，低学年の児童にとって体験の意義は大きい。しかし，実体験だけでは，自分が活動した

ことや，自分が経験したことがどのように位置づくのか，気付くこともまた難しい。特に実体験と言っても，時間空間的な物理的制約に縛られているのが我々人間である。現実の生活の中では，見えないこと知りえないことが山ほどあるのが現実である。教師も同じで，限りある生活を生きているのが我々である。他人の知見も最大限活用していくことが，学ぶということであろう。

どう学ぶか…。今日，テレビや DVD の映像もインターネットの情報も，豊かに提供されている。その情報の一つが絵本ということでもあろう。絵本という情報の利点は，読者の理解速度に応じて，ページをめくることができ，何度でも繰り返し読み返せることにある。繰り返し読む（見る）ことによって，子どもたちはより深い知識へと辿りつくことになる。特に，まだ文字や本を読むことに不慣れな小学校低学年の 1，2 年生が，自分の体験と照らし合わせながら，幼児期からの馴染みのある絵本で生活科の学びを深めていくことは，有効なことではないか。

小学校教科の「国語」では，既に絵本がかなり教科書で取り上げられている。ヴィアックス・図書館事業本部テクニカルサポート室作成による資料 [2] によれば，小学校 1，2 年生の国語の教科書（学校図書・教育出版・三省堂・東京書籍・光村図書の 5 社）に掲載または紹介させている絵本は，日本の絵本，外国絵本を合せると優に 200 冊を超えている現状である。試しに光村図書出版の教科書を当たってみたが，光村図書出版の教科書だけでもざっと数えて 1，2 年生を合わせれば 100 冊を超える数になっていた。従って，国語教科と絵本の関係を研究した論文 [3] も多々散見できる。現在では小学校への「英語」の導入で，小学校の英語教育と絵本の関係を論じる研究論文も多い。

教科書で紹介されたすべての絵本が授業で取り扱われている訳ではないだろうが，教科書に載っている絵本は，子どもたちの目に触れることになる。しかし，教科書に本文すべてが掲載されたものも，文も絵も同一だったとしても，教科書の紙面の関係もあり，絵本のダイナミズムは伝えようもない。そこで，図 1 に示した荒川区立汐入東小学校のように，学校の図書室で「国語の教科書に出てくる本」というコーナーを作り，実際の絵本が手に取れるように配慮しているところも多いに違いない。

図 1 を見た限りでも，小学校 1，2 年生の本は，

図 1　国語の教科書に出てくる本（1，2 年生）

かなりたくさんの絵本が並んでいる。教科書に紹介されている絵本を直接自分の手にすることは，子どもたちにとってはうれしい驚きである。それは，子どもだけでなく教師にとっても同じことかもしれない。

絵本は，「国語」で扱うだけでなく，理科と社会が合わさった教科の生活科でも有効なのではないだろうか。文学とは違った視点で絵本を読むことを我々は知るべきだろう。絵本には科学絵本というジャンルがあり，かなり質のよい充実した情報が子どもたちに届けられるはずである。科学絵本というと，自然科学の絵本に特化して考えられがちであるが，科学絵本は子どもたちに科学することの面白さ，つまり考えることの面白さを，そして予想も出来なかったことへの驚きを伝えるものであり，近年社会科的な問題を科学した絵本もノンフィクション絵本などとして，充実して来ている。絵本は，文学的，美的思考や感覚を育てるだけでなく，子どもたちの科学する心を育てることにも貢献するものなのである。かなり深いところまで科学的思考にこだわった絵本もあり，調べ学習のツールを示し，また中学年で始まる理科や社会科の学びにもつないでいく，その橋渡しの役目も果たせる。国語教科書のように物理的な必要によっていいように加工したものではなく，生活科ではダイレクトに絵本そのままを用いての授業が可能だと考える。そこが生活科で絵本を教材として使う面白さ，醍醐味でもあろうか。幼小連携の観点から，生活科での絵本導入について考える研究者 [4] [5] [6] も出てきているし，生活科でも有効に絵本が活用できるとする現場の教師もいる [7]。絵本そのものの視覚表現性も含めて，絵本を教材として

授業に使う意味を改めて考えたい。

そこで，大学の授業で生活科を学ぶ学生にも，その可能性について気付きを起こしてもらうべく，「生活科の授業で絵本を使うとしたら，どのような絵本がどのような内容に沿って提示できるか」を考えてもらうことにした。「提示できるか」というより，むしろ子どもと学びあえるかと考えた方がよいだろう。学生たちに，生活科の学びを終えた最終課題として考えてもらった。それをもとに，生活科で絵本を授業に教材として使う可能性を考えていく。

Ⅰ　方法：課題の提出について

対象者は，N 女子大学家政学部児童学科の前期「生活」の受講者 86 名であった。対象者は主に児童学科の 3 年生で，4 年生が 2 名であった。4 年生 2 名と課題の意図理解に問題のあった 1 名を除き 83 名をデータ分析の対象とした。対象者となる 3 年生のほとんどが，2 年生に絵本についての講義を受講しており，絵本についてはある程度の知識を有している。2 年生の絵本の授業では，絵本の基本構造や視覚表現性，歴史，現代絵本の特徴等を扱い，小学校の授業で絵本を使用するといった内容は，授業内容に含まれていない。そこで，絵本を授業で使用する可能性のあることを，「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」[8] にあった齊藤和貴先生による「小学校，生活科の単元『未来に向かって自分たんけん』」から事例として紹介した。

その際，授業担当者の齊藤和貴先生の生活科と絵本を結んで考える次のようなコメントも紹介した。「生活科と聞いて，不審に思われた方がいるかもしれません。なぜなら，生活科は「具体的な活動や体験」を重視する教科であり，絵本とは対極に位置するように思われるからです。確かに，絵本だけで終わってしまっては生活科になりませんが，絵本が子どもたちの活動をより豊かにし，生活科が大事にする気付きを深めてくれるのであれば，絵本を使った授業も子どもたちにとっては意味ある学習材になります。単元は，2 年生の生活科で，「成長単元」と呼ばれています。一般的には，2 年生の一番最後の単元として扱われ，3 年生への進級を目前にした時期に行われます。」[9] というもので，ここから生活科が「具体的な活動や体験を重視する教科」という理解と「生活科」で絵本を使用することに矛盾がないことを学生たちに確認してもらった。

また事例として，内容（9）自分の成長と使用する絵本を紹介したので，この内容（9）は外し，他の 8 項目の内容について考えてもらうことにした。その際に，課題の説明として次の 5 項目をポイントとして提示した。「例は，内容（9）が取り扱われています。生活科は低学年の教科なので，他の「内容」でも絵本を導入に使用したり，内容をより深めるために絵本が活用できるものと考えられます。さて，課題ですが，内容（9）以外の内容を取り扱う時に，導入にはどのような絵本が，また子どもたちの気付きをさらに深めるためには，どのような絵本がよいか考えて，各 1 冊の計 2 冊を探してもらいます。①授業で取り扱う内容：内容の 9 項目から，（9）を除く（1）～（8）までの 8 項目について考えること。どの内容にかかわって選書したかを記す。②授業対象の学年（1 年生 or 2 年生）と授業の目的（ねらい）について記す。③導入に使用する絵本　1 冊（書名，著者，出版社，出版年）④子どもたちの「気付き」をさらに深めるために使用する絵本　1 冊（書名，著者，出版社，出版年）⑤その絵本を，内容に合せて，それぞれ導入，気付きの深まりに使用するとよいと考えた根拠を記すこと。」この課題は，半期間の授業の最終課題として提出することとした。

この授業の受講生は，「生活」という科目の性格上教職資格取得を目指す学生である。今回の分析対象とした受講生は，幼稚園のみ（56 名），幼稚園・小学校（23 名），小学校のみ（3 名），未定（1 名）の教諭・教員資格取得希望者が混在している状況であるが，その多くが幼児教育及び保育内容について学んでいる者たちである。

Ⅱ　提出課題の集計結果から

順に集計結果を見ていく。

○授業計画の内容別

授業の対象とする内容別では，（1）学校と生活→7 名，（2）家庭と生活→17 名，（3）地域と生活→7 名，（4）公共物や公共施設の利用→3 名，（5）季節の変化と生活→18 名，（6）自然や物を使った遊び→1 名，（7）動植物の飼育・栽培→28 名，（8）生活や出来事の交流→2 名であった。

（7）動植物の飼育・栽培，（5）季節の変化と生活，（2）家庭と生活の順に多く，（6）自然や物を使った遊び，（8）生活や出来事の交流，（4）公共物や

公共施設の利用を対象としたものは少なかった。内容の（7）と（5）で授業を考えた者で 55.4％が占められたことになる。

出口らの研究（2017）[10] では，「季節の変化や身近な自然の様子に自ら気付いたり，それらに気付くための学習活動の計画をしたり，植物を育てることについて，肯定的な回答が有意に多い」，「授業の中で直接体験として季節見つけ活動を導入していることや，受講者自身が小学生当時に経験したことの印象が強いことが要因として考えられる」としていることから，学生が対象として選んで多かった内容のものは，同じように学習内容に関して印象や記憶に残りやすい，言い換えれば彼らにとって取り扱いやすい内容であったと推測できる。出口らの研究では，自然を扱ったものの中で，おもちゃづくりに関する学習活動の計画について，肯定的回答と否定的回答に有意な差は見られなかったとのことであるが，自然や物を使った遊びを取り上げた絵本は少なくないので，今回の課題提出でこの内容に 1 名しかトライしていなかったのは意外であった。

授業の対象学年として，1 年生対象者は 49 名，2 年生対象者は 34 名であった。約 6 割が 1 年生を対象とした授業を考えていたことになる。1 年生を対象とした人たちは，内容別では，（5）が 28.6％，（7）が 22.4％，（2）が 20.4％の割合で，絵本選択をしていた。2 年生を対象とした人たちは，内容の（7）が 50％，（2）が 20.6％，（5）が 11.8％の順で割合が多かった。1 年生対象者と 2 年生対象者の決定的な違いは，内容（1）への絵本選択に表れた。1 年生対象者には，7 名（14.3％）いたが，2 年生対象者では 0 名であった。つまり，内容（1）で絵本を使った授業を考えた学生は，すべて 1 年生を対象としたことになる。（1）の内容を，スタートカリキュラムとの関係で学校になじむと言った感覚で捉えている学生が多かったのではないかと思われる。

また，内容（1）を対象とした学生 7 名中 6 名は，幼稚園教諭と小学校教員資格をともに取得希望する学生で，これもまた幼小連携についての関心のように思われる。

2 年生を対象として内容（7）で絵本を使った授業を考えた学生は，83 名中 17 名（20.5％）で，最も多かったことになる。内容（7）で 1 年生対象（39.2％）と 2 年生対象（60.7％）を比較すると，約 6 割が 2 年生を対象としていることになる。次に多かった内容（5）では，1 年生対象が 14 名（77.8％），2 年生対象者が 4 名（22.2％）と 1 年生を対象とした授業の方が断トツ多く計画された。3 番目の内容（2）では，1 年生対象（58.8％）と 2 年生対象（41.2％）で，1 年生対象の方が多かった。

〇学生が選書した絵本

学生たちが考えて選書した絵本のタイトルは，総数で 141 タイトルあった。83 名で，1 人 2 冊なので，最大 166 タイトル出てもよいところ，2 冊ダブったタイトルが 12，4 冊ダブったタイトルが 3，5 冊ダブったタイトルが 1 あった。4 冊ダブったタイトルの絵本は，『ずーっと　ずっと　だいすきだよ』（ハンス・ウィルヘルム作，久山太市訳，評論社，1988），『ぐりとぐらのうたうた 12 つき』（なかがわりえこ作，やまわきゆりこ絵，福音館書店，2003），『ちょっとだけ』（瀧村有子作，鈴木永子絵，福音館書店，2007），5 冊ダブった絵本は『はじめてのおつかい』（筒井頼子作，林明子絵，福音館書店，1977）であった。

『ずーっと　ずっと　だいすきだよ』は，計画された授業の内容がすべて内容（7）で気付きを深めるために用いるとなっていた。対象学年は 2 年生が 1 名，1 年生が 3 名であった。また，『ちょっとだけ』も内容（2），気付きを深めるために導入するで 4 人が一致していた。対象学年は 1 年生 1 名，2 年生 3 名と分かれた。ダブった絵本のほとんどは対象学年が分かれたが，『ぐりとぐらのうたうた 12 つき』に限っては，対象学年 1 年生ですべてが授業の導入部分で使用する，内容（5）ですべてが一致していた。5 名がダブった『はじめてのおつかい』は内容（2）が 3 名，内容（3）が 2 名と分かれた。対象学年は 1 年生が 3 名，2 年生が 2 名，導入部分で 3 名，気付きを深めるために 2 名がこの絵本を使用すると分かれた。この絵本は，使い方で一致する人が誰もおらず，5 人がそれぞれに使い方が異なるという結果であった。『はじめてのおつかい』は，さまざまな視点から授業に使用できる絵本ということなのだろう。『はじめてのおつかい』は，福音館書店による指定グレードによると「3 才～小学校初級むき」となっており，幼児期から小学校初級まで幅広く読まれることが想定されていて，この点からも生活科で使用する発想が支えられたのだろう。

対象学年別でみると 1 年生対象が 88 タイトル，2

図２　『ずーっと　ずっと　だいすきだよ』

図３　『ちょっとだけ』

図４　『はじめてのおつかい』

年生対象が 64 タイトルあった。導入に使用が 76 タイトル，気付きを深めるが 73 タイトルがあがっていた。2 冊以上ダブった絵本で，導入にしか使用されなかったものとしては，先に述べた『ぐりとぐらのうたうた 12 つき』，『ぐりとぐらの 1 ねんかん』（なかがわりえこ作，やまわきゆりこ絵，福音館書店，1997），『せかいでいちばん手がかかるゾウ』（井の頭自然文化園文，北村直子絵，教育評論社，2014）があがった。先の 2 冊の「ぐりとぐら」の絵本は，対象学年も 1 年生のみで，内容もすべて（5）であった。最初の学年で，季節の変化と生活を考える生活科の授業の導入にはもってこいの絵本，ということになるのだろう。

また，2 冊以上ダブった絵本で「気付きを深めるため」にのみ使用するとした絵本には，先にあげた『ずーっと　ずっと　だいすきだよ』，『ちょっとだけ』に加え，『子どもと楽しむ行事とあそびのえほん』（すとうあさえ作，さいとうしのぶ絵，のら書房，2007），『たろうのおでかけ』（村山桂子作，堀内誠一絵，福音館書店，1966），『ふたりはともだち』（アーノルド・ローベル作，三木卓訳，文化出版局，1972）があがっていた。『ふたりはともだち』は短編集で，なかの「お手紙」は，2 年生の国語の教科書で扱われる教材だが，今回はいずれも 1 年生が対象学年となっていた。

学生たちによって選ばれた絵本を概観すると，選ばれた絵本 141 冊のほとんどが，絵で描かれており，写真を使った絵本は，『科学のアルバム・かがやくいのち（2）ダンゴムシ落ち葉の下の生き物』（皆越ようせい著・写真／岡島秀治監修，あかね書房，2010），『葉っぱのフレディ　いのちの旅』（レオ・バスカーリア作，みらいなな訳，童話屋，1998），『どうぶつのあかちゃん』（今泉忠明監修，岩合写真事務所ほか・写真，ひさかたチャイルド，2014），『やさいはいきている』（藤田智監修，岩間史朗写真，ひさかたチャイルド，2007），『イモムシ』（新開孝著・写真，ポプラ社，2013）など，数えるほどわずかなものであった。生活科の教科書は，多様な写真に溢れているが，絵本では絵で描く絵本が多く選択されるという結果となった。

海外のものは 141 タイトル中 26 タイトル，日本の絵本は 115 タイトルで，日本の絵本が約 4.4 倍の数に上った。また年代的には，比較的近年に発行されたものが選ばれ，2000 年以降の発行のものが 95 タイトル，それ以前は 46 タイトルであった。内訳は，1960 年代で 3 タイトル，1970 年代で 9，1980 年代で 11，1990 年代で 23，2000 年代で 46，2010 年代で 49 タイトルであった。

そして，141 タイトルの中でも，その多くの絵本に物語が語られており，調べ学習に使用するような図鑑的なものはあまり選書されていなかった。低学年の子どもの発達を考えてのことかもしれない。また写真は，現実を映し出し臨場感のあるものである

が，写真はそのままの状況をすべて提示してしまうので，情報過多になることもある。見てほしいところを強調して出せるのは，人が描く絵で，低学年の子どもたちには適しているのかもしれない。福音館書店からでている『たんぽぽ』（平山和子文・絵，1976）などは，その好例だろう。また，知識としてのみでなく，そこにドラマというか物語があることで，低学年の子どもの場合には記憶に残りやすいのかもしれない。物語の感動とともに，科学的な知識を吸収するというスタイルが好まれているようである。

例えば『せかいでいちばん手がかかるゾウ』などでは，年老いていく象の命を守るためにいかに愛情を持って飼育係が奔走するかと言ったドラマとともに，象のというものがいかなる生き物なのかということ，象が動物園で飼育されるとはどういうことなのかについても，読者に伝えてくれている。そうした絵本が選択されている。国語という教科で，絵本を扱うのとは，また一味違った視点が加味されてくるように思われる。

表 1 は，「内容（7）動物を飼ったり植物を育てたりして，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち，また，それらは生命をもっていることや成長していることに気付き，生き物への親しみをもち，大切にすることができるようにする。」[11] を授業で取り扱う内容として，選んだ絵本である。『ずーっと　ずっと　だいすきだよ』の絵本を「気付きを深める絵本」として選んだ no.11，12，18，19 の 4 名も，導入に選んだ絵本と合せて見てみると，それぞれの意図に違いがあることがわかる。これらについては，提出された課題に記された彼らの目的，意図を参照しながら，Ⅳの考察でより詳しくみていくことにする。また，no.2，25，26，28 の学生は，テーマを野菜，いもむし，サツマイモ，ダンゴムシなどに揃えその深まりを促そうと同じ傾向の絵本を 2 冊用意して考えている。

出版社別にみると 49 社あった。5 タイトル以上出ていた出版社は 6 社で，福音館書店の絵本は 40 タイトル，偕成社・童心社ともに 8 タイトル，講談社・佼成出版 6 タイトル，ポプラ社 5 タイトルで，断トツに福音館書店の絵本が選ばれていた。

絵本の選択傾向としては，授業内容としては内容（5），（7）を中心にし，絵本にストーリー性があり，絵で描いてある絵本で，出版年は比較的新しいものから選書したという傾向が伺える。そうした学生の要望に，福音館書店の絵本はよく応えたということになるのだろうか。

Ⅳ　課題の集計結果及び学生たちの絵本選択の根拠からの考察

表 1 は，内容（7）を授業内容に絵本の導入を検討した 28 名の学生たちの，対象学年，導入に使う絵本，気付きを深めるために使う絵本別に集計した表である。結果のところでも述べたが，『ずーっと　ずっと　だいすきだよ』[12] を「気付きを深めるために使う絵本」としてあげていた学生たち（no.11，12，18，19）の導入で使用する絵本との関係でその意図を見ることにしよう。それぞれが選んだ絵本の書誌情報及び作品紹介（インターネット上の出版社からの内容紹介）は註記にまとめて記す。

no.11：授業のねらいでは，「動物は自然の中で暮らしていることを理解し，自分たちが飼う際に動物が暮らしやすくするにはどうすれば良いか考えることができる。生き物の命には必ず終わりがくることに気付き，その上で生き物を大切にすることができる」としている。学校で飼育するうさぎを導入にし，うさぎ目線になることで飼育する際の工夫を考えることができるようにと願っているようであった。導入の絵本『うさぎのぴこぴこ』[13] で動物目線で飼育することを学んだ後に，『ずーっと　ずっと　だいすきだよ』の絵本から，動物の命には限りがあること，いつ来てしまうかわからない別れがあることを知ることによって，動物をより深く愛おしいと思って飼育できるように。ただ生き物をかわいがるだけでなく，愛をもって大切に育てることが自ずとできるようになるように。との願いを込めて、動物の飼育に力点を置いて，絵本選択をしている。

no.12：導入の絵本に『いちご』[14] を使うのは，イチゴが育つ過程を追うことで，植物の成長過程を知り，「イチゴははじめから赤くないこと，いままで知らなかったことを知ることで，自分には知らないことがあることに気付くことができる」とする。絵本の作りから，イチゴの立場に立って考えてみることが促されるという。『ずーっと　ずっと　だいすきだよ』の絵本は，動物を飼う環境にない子どもにも気持ちが伝わる絵本で，生きていることの尊さを知ることができるとしている。植物から動物に視点を広げて生命という大きなものの大切さに気付か

表１　内容（7）を授業内容とした絵本選択

no	学年		書名	文	絵	訳	出版社	年
1	1	導入	おべんとうなあに？	山脇恭	末﨑茂樹		偕成社	1992
		気付き	やさいのがっこうピーマンくんゆめをみる	なかやみわ	なかやみわ		白泉社	2017
2	2	導入	やさいもぐもぐ	ふくざわゆみこ	ふくざわゆみこ		ひかりのくに	2010
		気付き	やさいはいきている	藤田智	岩間史朗(写真)		ひさかたチャイルド	2007
3	2	導入	やさいのおなか	きいちかつ	きうちかつ		福音館書店	1997
		気付き	しんでくれた	谷川俊太郎	塚本やすし		佼成出版	2014
4	2	導入	ぼく、だんごむし	得田之久	たかはしきよし		福音館書店	2005
		気付き	ぼくのキャベツくん	さとうち藍	津田櫓冬		福音館書店	2003
5	1	導入	どうぶつのあかちゃんうまれた	鈴木まもる	鈴木まもる		小峰書店	2008
		気付き	飼育係長	よしながこうたく	よしながこうたく		好学社	2014
6	2	導入	にじいろのさかな　まいごになる	マーカス・フィスター	マーカス・フィスター	谷川俊太郎	講談社	2005
		気付き	とらきちのいいところ	H@L	H@L		フレーベル館	2017
7	2	導入	つちづくり　にわづくり	ケイト・メスナー	クリストファー・サイラス・ニール	小梨直	福音館書店	2017
		気付き	たべられるしょくぶつ	森谷憲	寺島龍一		福音館書店	1972
8	1	導入	ぴよちゃんとひまわり	いりやまさとし	いりやまさとし		学研	2004
		気付き	いのちのはな	のぶみ	のぶみ		KADOKAWA	2016
9	2	導入	ねえ　しってる？	accototo	accototo		幻冬舎	2010
		気付き	まけるなアオムシくん！	福山とも子	福山とも子		銀の鈴社	2010
10	2	導入	やさいのがっこう　とまとちゃんのたびだち	なかやみわ	なかやみわ		白泉社	2016
		気付き	ソフィーのやさいばたけ	ゲルダ・ミューラー	ゲルダ・ミューラー	ふしみみさを	BL出版	2014
11	2	導入	うさぎのぴこぴこ	山崎陽子	いもとようこ		至光社	1993
		気付き	ずーっと　ずっと　だいすきだよ	ハンス・ウィルヘルム	ハンス・ウィルヘルム	久山太市	評論社	1988
12	1	導入	いちご	平山和子	平山和子		福音館書店	1989
		気付き	ずーっと　ずっと　だいすきだよ	ハンス・ウィルヘルム	ハンス・ウィルヘルム	久山太市	評論社	1988
13	1	導入	どんどこどん	和歌山静子	和歌山静子		福音館書店	2008
		気付き	ヨウヨウとルウルウのとうもろこし	劉郷英	張治清		福音館書店	2001
14	2	導入	おたまじゃくしは・・・・・	鹿悦子	田頭よしたか		ひさかたチャイルド	2008
		気付き	スローロリスのハリーちゃん	大西伝一郎	狩野富貴子		フレーベル館	2006
15	2	導入	せかいでいちばん手がかかるゾウ	井の頭自然文化園	北村直子		教育評論社	2014
		気付き	ウミガメものがたり	鈴木まもる	鈴木まもる		童心社	2016
16	1	導入	せかいでいちばん手がかかるゾウ	井の頭自然文化園	北村直子		教育評論社	2014
		気付き	ひまわり	荒井真紀	荒井真紀		金の星社	2013
17	2	導入	あさがお	荒井真紀	荒井真紀		金の星社	2011
		気付き	エディのやさいばたけ	サラ・ガーランド	サラ・ガーランド	まきふみえ	福音館書店	2010
18	1	導入	どろんこハリー	ジーン・ジオン	マーガレット・ブロイ・グレアム	わたなべしげお	福音館書店	1964
		気付き	ずーっと　ずっと　だいすきだよ	ハンス・ウィルヘルム	ハンス・ウィルヘルム	久山太市	評論社	1988
19	1	導入	どうぶつ川柳　ぼく、だーれ？	サトシン	ドーリー		そうえん社	2014
		気付き	ずーっと　ずっと　だいすきだよ	ハンス・ウィルヘルム	ハンス・ウィルヘルム	久山太市	評論社	1988
20	2	導入	こどものずかんMio(4)うみのいきもの		村上康成		ひかりのくに	2005
		気付き	ぼくのわたしのすいぞくかん	小宮輝之	津田櫓冬		福音館書店	2000
21	2	導入	みんなちきゅうのなかまたち	イングリッド・シューベルト	ディーター・シューベルト	よこやまかずこ	光村教育図書	1998
		気付き	どうぶつのあかちゃん	今泉忠明	岩合写真事務所ほか（写真）		ひさかたチャイルド	2014
22	1	導入	ぐんぐんぐんみどりのうた	デービッド・マレット	オラ・アイタン	脇明子	岩波書店	1998
		気付き	たんぽぽ	平山和子	平山和子		福音館書店	1972
23	1	導入	はたけのはなとみ	ごんもりなつこ	ごんもりなつこ		福音館書店	1983
		気付き	やさいのおなか	きうちかつ	きうちかつ		福音館書店	1997
24	2	導入	ゆうだち	阿部肇	阿部肇		ポプラ社	2006
		気付き	うちの近所のいきものたち	いしもりよしひこ	いしもりよしひこ		ハッピーオウル社	2009
25	2	導入	イモムシ	新開孝	新開孝（写真）		ポプラ社	2013
		気付き	いもむしってね・・・	澤口たまみ	あずみ虫		福音館書店	2014
26	2	導入	ねずみのいもほり	山下明生	岩村和朗		ひさかたチャイルド	1984
		気付き	そだててあそぼう(3)サツマイモの絵本	たけだひでゆき	にしなさちこ		農山漁村文化協会	1997
27	2	導入	しんでくれた	谷川俊太郎	塚本やすし		佼成出版	2014
		気付き	いただきまーす！	二宮由紀子	荒井良二		解放出版	2003
28	1	導入	ころちゃんはだんごむし	高家博成	仲川道子		童心社	1998
		気付き	科学のアルバム・かがやくいのち（2）ダンゴムシ落ち葉の下の生き物	皆越ようせい	皆越ようせい(写真)		あかね書房	2010

せることができるし，そこから，生き物に接するときに何が重要なのか気付くことができるだろう…と考えている。

no.18：授業の目的は，「身近にいる動物や身近にある植物にもきちんと生命があり，いつかは「死」を迎えることに気付き，身近なものを大切にする心を養うこと」としている。「死」という，「小さい子にはなかなか想像しづらく，考えられないであろうことを教えたい」と思いこの 2 冊にし，動物の中でも「犬」に焦点を絞って考えたという。（導入には『どろんこハリー』[15] を選ぶ）『ずーっと　ずっとだいすきだよ』のよいところは，「だいすきだよ」と伝え，思っていることはきちんと伝えなければいけないことを教えてくれる素敵な作品であるとしている。

no.19：授業のねらいは，「身近な動物に興味を持ち，命の大切さに気付く」ということ。

『どうぶつ川柳　ぼく，だーれ？』[16] はクイズ形式の絵本で，この本を読み聞かせたあと，好きな動物についての調べ学習につなげその動物について川柳を作り，クイズ大会をするプログラムを考えたという。『ずーっと　ずっと　だいすきだよ』については，この絵本のよいところは「エルフィーが死んで悲しいままで終わらずに，笑顔で終わるのがよい。」とし，主人公は「ずーっと　だいすきだよ」と毎晩伝えていたから，みんなよりは悲しくないという文章に，ことばにすることの大切さを学んでほしいと述べていた。

4 名とも似たような目的や動機で『ずーっとずっと　だいすきだよ』の絵本選択を行っているが，導入の絵本との組合せが違うことで，印象もだいぶ違うように思われる。低学年の子どもたちに死を語ることの難しさには 4 名ともに言及しており，この絵本のよさに，「死」の訪れが「悲しい別れ」で終わるのではなく，「愛していることをしっかり伝えてきたという満足感が救いになっている」と捉えているところも共通している。

『ずーっと　ずっと　だいすきだよ』の絵本は，国語の教科書（光村図書『こくご一下』）で取り上げられており，授業の時期にもよるが，合科的に取り組むことも可能であろう。国語教材的に読む場合と，生活科教材的に絵本を使う場合の違いを工夫する必要があることはいうまでもないが，絵本では余白の空間にも意味があり，感じ方も異なってくるので，意味的内容ばかりを追い求めるのではなく，絵本だから読みとれる思いや感じ方を追求してほしいものである。鈴木（2016）は，学生のビブリオバトル（書評ゲーム）で最高位だった『ずーっとずっと　だいすきだよ』の国語教材化における功罪を論じているが，「国語教科書への掲載は，絵本の挿絵を軽視し，言語表現を重視した児童文学への変換ということができる」[17] としていて，言語を重点化して絵本を選択することで，「文学教材としての絵本の読み聞かせに陥る」危険性に警鐘を鳴らしている。

生活科で絵本を使用する場合，生活科としての視点が必要なことはいうまでもない。今回の試みで，かなり幅のある絵本選択をしていることは数的には確かだが，文学教材としての読み聞かせに呪縛されていないとは言い切れないようにも思われる。考察では紙面の関係もあり，1 冊の本しか取り上げられなかったが，全体的に感動する話を求めていることには違いない。大方の学生が，まだまだ絵本を文学（テーマや話の展開）との関係で捉えているようにも思われる。選択する絵本に物語を求める志向は，幼い子どもの発達特性を踏まえてともとれるが，選者自身のなかにそうした幼いころからの呪縛があるとも考えられる。さまざまなジャンルの絵本を広範に見ていく力が必要なことになるだろう。優れた図鑑や，科学絵本のジャンルに入る絵本で著名なものが選書されてこなかった違和感は，そのようなところに源泉があるのかもしれない。しかし，その点については，逆説的な言い方からすれば，今後「理科」や「社会」へ移行していこうとする生活科の教科に，単なる知識の注入を考えず，子どもたちの生活を背景に子どもたちの納得のいく形で語ろうとした，生活科という教科への学生たちの理解の証左とも受け取れる。141 タイトルの絵本があがったということは，生活科へ絵本を導入することが，まだ観念的に固定化されていないことでもあり，柔軟な絵本選択が可能であったということでもあろう。絵本への広範な目配りは，一教員で可能なことでは到底ない。学校図書館の充実や司書たちの活躍と連携が期待されるところである。

＜註＞

1）石井光恵：生活科の授業が広がる絵本―絵本を通して「気付き」の目を養う―，日本女子

大学紀要（家政），**62**，1-9（2015）
2）平成 23 年度小学校　国語の教科書に載っている絵本・児童書（掲載・紹介を含む）
ヴィアックス・図書館事業本部テクニカルサポート室作成（2015 年 12 月改訂）
http://viax-childrensbooks.jp/wp/wp-content/uploads/2015/12/小学校国語教科書に紹介されている絵本・児童書のリスト 2015.pdf
3）山元隆春：「読解力」育成に果たす絵本の役割―現代絵本を使って「文学的要素」を教える試み―，論叢国語教育学，復刊**5**（通巻 10）号，71-89（2014）
4）小川恭子・駒形武志：幼小連携を視野に入れた国語教育について―絵本を題材として―，藤女子大学人間生活学部紀要，**54**，81-89（2017）
5）鈴木貴史：保育者の絵本選択における言語表現重視の傾向とその課題―保育者養成課程における絵本ビブリオバトルの実践から―，帝京科学大学紀要，**Vol.12**，147-153（2016）
6）矢島毅昌：児童文化財の活用による保育内容／小学校生活科の教育理念の具体化：絵本を中心とした人・物・環境の関係に着目して，島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要，**56**，31-40（2017）
7）8）9）「授業に役立つ学校図書館活用データベース」のホームページでは，絵本を使った授業等（指導案も含め）が紹介されている。
URL：http://www.u-gakugei.ac.jp/～schoolib/htdocs/index.php?page_id=0
10）出口明子他：教員養成課程における「生活科教育法」の授業改善に関する基礎的検討―受講生を対象とした質問紙調査を通して―，宇都宮大学教育学部教育実践紀要，**3**，425-428（2017）
11）文部科学省：小学校学習指導要領解説　生活編，日本文教出版，34（2008）
12）『ずーっと　ずっと　だいすきだよ』ハンス・ウィルヘルム作，評論社，1988：エルフィーとぼくは，いっしょに大きくなった。年月がたって，ぼくの背がのびる一方で，愛するエルフィーはふとって動作もにぶくなっていった。ある朝，目がさめると，エルフィーが死んでいた。深い悲しみにくれながらも，ぼくには，ひとつ，なぐさめが，あった。それは…
13）『うさぎのぴこぴこ』山崎陽子文，いもとようこ絵，至光社，1993：はじまりは落し物のバスケット。ぬいぐるみのうさぎ，ぴこぴこと森のうさぎたちとの出会いと別れ。心温まるふれあいをそっとのぞいてみませんか?
14）『いちご』平山和子作，福音館書店，1989：畑で雪の下にうずもれながら寒い冬をこす，いちご。春あたたかくなると，つぼみをつけて小さな白い花をさかせました。花のあとには，青い小さな実がなりました。でも，この実はまだすっぱい。ほらほら，いちごの実が少しずつ赤くなってきましたよ。そして真っ赤に色づいたいちごは甘くてとってもおいしそう。いちごが成長し甘くなるまでの待ち遠しい気持ちがいちごの絵から伝わってくるようです。甘くなったいちごは，大事においしく「いただきます」。
15）『どろんこハリー』ジーン・ジオン文，マーガレット・ブロィ・グレアム絵，わたなべしげお訳，福音館書店，1964：ハリーは，黒いぶちのある白い犬です。なんでも好きですが，お風呂に入ることだけは，だいきらいでした。ある日，お風呂にお湯を入れる音が聞こえてくると，ハリーは体を洗うブラシを口にくわえて逃げだして，ブラシを裏庭に埋めました。それから，家の外に出て行ってしまいます。泥だらけ，すすだらけになったハリーが家に戻っても誰も分かってくれません。がっかりしたハリーが，裏庭でブラシを見つけ出し，わんわん吠えると……。
16）『どうぶつ川柳　ぼく，だーれ？』（サトシン作，ドーリー絵，そうえん社，2014：いろんな　どうぶつが，いろんな　きもちを　せんりゅうに　したためて　つぶやいているよ。あの　つぶやきは，だれのかな？
17）5）に同じ